

# CKJS だより



最終号  
校長 岡野真弓

ckjs-office@ckjs.org  
Tel; (859) 422-1246

## 御礼の言葉 (高等部二年)

今日まで私たちと楽しく、温かい時間を過ごしてくれたカプステイ君、高橋君。

二人がこの補習校を巣立つ日を迎え、私たちは感謝と寂しさの入り混じった気持ちでいっぱいです。二人と過ごした時間は、単なる思い出以上のものでした。私たちに多くの学びと刺激を与えてくれた、かけがえない時間でした。二人は、補習校の最高学年として頼れるリーダーでした。

昨年五月の運動会では、カプステイ君と高橋君がそれぞれ白組・赤組の組団長を務めました。同じ白組だった私は、団長として仲間を引っ張るカプステイ君の姿を見て、とても頼もしく感じました。また、赤組の団長として下の学年の生徒たちをまとめる高橋君の姿からは、自然と人を惹きつける統率力を感じました。普段の授業でも、二人の存在は大きなものでした。

小論文の授業では、高橋君の文章が先生から高く評価され、クラスの前で読まれました。その文章は物事を多角的に捉え、私には思いつかない視点で書かれていたのが、とても印象に残っています。数学の授業では、カプステイ君の計算の正確さと、問題に応じて最適な解法を瞬時に引き出す「思考の引き出し」の多さに何度も驚かされました。私は二人を通して、言葉の力と、論理の力の両方からインスピレーションを受けました。それから、忘れられない思い出といえば、昼休みのトランプです。

毎週のように、先生が持ってきてくださったお菓子をかけて、ババ抜きや大富豪で本気の勝負をしました。先輩も後輩も関係なく、真剣になって、笑って、悔しがって。あの時間があつたからこそ、高等部の仲はより深まったのだと思います。高校を卒業し、これから二人はそれぞれ新たな道へ進んでいきます。

どうか、補習校で学んだこと、ここで過ごした時間を心のどこかに持ちながら、自分らしく歩んでいってください。二人のこれからの未来が、実り多く輝かしいものであることを心から願っています。ご卒業、本当におめでとうございます。

令和八年三月十四日

高等部二年 池田 貴紀

## 別れの言葉 (高等部三年)

本日、私たちは補習校での学びを終え、卒業の日を迎えました。

土曜日の朝、現地校の友人たちがまだ眠っている時間に、私たちは教材を抱えて補習校へ通い続けました。現地校での勉強や部活動に加え、補習校の宿題に追われる日々。正直に言えば、「なぜ自分だけがこんなに忙しいのだろう」と自問自答したこともありました。

しかし、今振り返ると、その答えは教室にありました。日本語という共通の絆で結ばれた仲間と過ごす時間は、私にとって、ありのままの自分でいられる大切な場所でした。二つの文化の間で揺れ動きながら得た視点は、これから広い世界へ踏み出す私たちにとって、何よりの強みになると確信しています。

最後に、毎週お弁当を作り、送迎をしてくれた家族へ。時に厳しく、時に温かく導いてくださった先生方へ。これまで支えてくださったすべての方々に、心から感謝申し上げます。

私たちは、ここで学んだこと、ここで出会った人たちとのつながりを胸に、それぞれの道を力強く歩んでいきます。本日は本当にありがとうございます。

令和八年三月十四日

高等部三年 高橋 怜央





### 別れの言葉（高等部三年）

先生方、保護者の皆様、本日はこのような素晴らしい卒業式を準備していただき、誠にありがとうございます。

私はアメリカで生まれ育ちました。幼稚園から今日まで、十三年間この日本人補習校で学ぶことができたことは、私にとってかけがえない経験です。授業で学ぶ教科の内容だけでなく、日本の文化や習慣についても、先生方や友達から多くのことを学びました。運動会、球技大会、学習発表会などの行事は、特に心に残る思い出です。高校三年生になってからは、運動会の団長や百人一首大会の読み手を務めさせていただきました。緊張もありましたが、皆さんの支えのおかげで最後までやり遂げることができました。

このような貴重な経験の場を与えてくださった日本人補習校に、心から感謝しています。

先生方は、私たちが理解できるまで何度も丁寧に教えてくださいました。時には、数学の一回に一時間かけて向き合ってくださいましたこともありました。週一回の授業のために、毎週多くの準備や教材作成をしてくださっていたことに、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

また、行事の企画や準備のために、見えないところで多くの時間と労力をかけてくださった保護者の皆様にも、心より御礼申し上げます。

両親には、毎週の送り迎えやお弁当の準備、宿題の確認など、日々支えてもらいました。忙しい生活の中でも励まし続けてくれたことに、深く感謝しています。

そして、高橋怜央君。これまで五年間、本当にありがとうございました。今日、こうして一緒に卒業式を迎えられることをとても嬉しく思います。

私たちは今日この補習校を卒業し、それぞれの道へ進みます。しかし、セントラルケンタッキー日本人補習校で学んだこと、経験したこと、そして出会った仲間とのつながりを大切にしながら、これからも成長し続けていきたいと思えます。

本日は本当にありがとうございました。

令和八年三月十四日

高等部三年カプステイ・ケイデン



**羽ばたけ！70名の卒園、卒業生たち！君たちの未来に栄光あれ！！**

異国の地で、お子様を立派にお育てになっている全ての保護者の皆様に敬意を表します。そして、日本の教育に意義を見だし、日本人補習校に大切なお子様をお預け下さったことを深く感謝申し上げます。